

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【研修レポート】

- 1 実施地区 上川地区
- 2 研修者氏名 中村 剛（士別市立糸魚小学校）
- 3 研修実施日 平成25年12月13日（金）
- 4 研修先 東京都練馬区立大泉第一小学校
- 5 研修目的 校内研究テーマと同様な実践内容を教育研究校から学ぶ
- 6 キーワード 国語科における交流活動

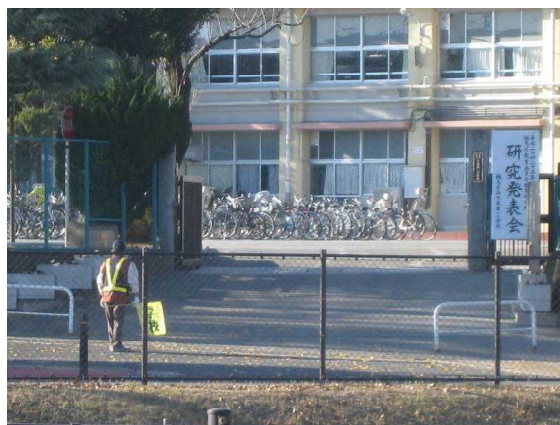
1 はじめに

このたび、道外視察研修の機会をいただき、本校と同じような実践、研究を行っている学校を視察できればと考えました。本校は、国語科の研究を進めており、平成23年度までの6年間は「読むこと」を、平成24年度からは「書くこと」を窓口に研究を推進しています。その間、毎年公開研究会を開催し、多くの方々からご助言、ご示唆をいただきながら、授業改善に努めてきたところです。今年、3年次計画の2年目で、11月22日に公開研究会を開催いたしましたが、次年度のまとめに向けて、同じような教育研究を進めている大泉第一小学校の研究発表会に参加させていただきました。後でわかったことですが、この小学校は、今年6月28日、1年生が集団下校中、男から刃物で突然切りつけられるという事件が発生し、報道等でも大きく取り上げられた学校でした。以降、「安全な学校目指して」の取組も進められ、当日の研究発表会でも、その一端が垣間見られました。

2 練馬区立大泉第一小学校の実践

(1) 保護者・地域と一体となった研究発表会

大泉第一小は児童数377人、13学級で、当日は全ての学級で授業公開が行われました。受付や案内などの仕事は、「大ーあんしん」の黄色いビブスを身に付けた多くの保護者の方が、伴って行われていました。また、私が案内された控室は「区外の校長・応援団」の部屋で、応援団すなわち地域の方々も数多く参加しており、総勢120名程度の規模だったと思います。



学校の様々な教育活動が保護者や地域の方々と一体と行われていると感じた光景でした。また、校舎は閑静で入り組んだ住宅街の中にあり、ほとんどの参加者は車ではなく自転車で参加していました。校庭にあふれ出した自転車には、正直驚きました。

(2) 研究の概要

研究主題 自分の思いを豊かに伝え合う子の育成 ～国語科交流活動を通して～ を元に、平成24年度～25年度にかけて、練馬区教育委員会教育研究校に指定されています。また、校内研では、毎回の授業研に、文教大学等の専門機関から必ず講師を招いているようです。

この研究を始めるきっかけになったことは、児童同士の言葉での意思疎通がうまくできずに、自分の感情を表すのに手を出してしまうことが多かったこと、また、児童アンケートの分析結果から、話を聞くことや考えを話すことを苦手とする児童が多いということなどの理由でスタートしたという説明がありました。

昨年度の研究の主な成果（○）と課題（●）として

○普段から話し合い活動を取り入れることによって、言葉に対する意識が高まり、丁寧に人と話をしようとする児童が増え、問題が起きた際も話し合いで解決しようという意識が芽生えてきた。

○下書きを作って自分の伝えたいことを整理したり、話の内容を正確に聞きとるためにメモをとったりすることで、話し合い活動に自信をもてるようになってきた。

- 学年に応じて、話し合いがより活発に深まりのあるものにするための工夫。(話型の充実・題材の選び方・指名計画など)
- 思考力を高めるために、単元や児童の実態に応じて様々な構成を工夫することを目指す。
ということを踏まえて、今年度の研究会となります。

(3) 公開授業の概要

4年1組の授業を中心に参観しました。このクラスだけではなく、ほとんどのクラスの正面に、「話し方5ポイント」という掲示物が掲げられ、全校的に研究が進められていると思われました。

授業内容は、物語に出てくる人間と動物の心情について、それぞれ自分の考えを、根拠を明らかにしながらノートにまとめ、グループで交流するというものでした。研究協議の中でも話題になっていましたが、

- ① 普段の学級づくりや学習規律の徹底
- ② 話すことよりも聞く態度を育てる大切さ
- ③ 常に根拠を求めていく姿勢の積み重ね

これらを全校あげて、しっかり取り組んできたことによって、子どもたちの一番大切な意欲につながっているのだらうと思われました。学級づくりや学習規律のアウトラインが決まっています、組織的に動いていることが、成果を上げている大きな要因だと思われました。また、具体的な児童の姿および「支援」がしっかりと明記されており、

A：叙述をもとに根拠を入れて明らかにしている → 良いところを褒めて、さらに他の考えはないか考えさせる。

B：自分の考えを明らかにしている → 叙述からなぜそう思うのか理由も探させる。

C：Bに満たない → 動物や人間の気持ちがわかる叙述を示し、考えさせる。

など、どの学級の授業にもこの「支援」が位置付けられています。1時間1時間の授業の積み重ねによって、この「支援」が生きたものになっていることも感じさせられました。

(4) 学習環境の整備

声の大きさに気を付けられるように「こえのものさし」(4段階の状況に応じた声の大きさを図解したもの)を、話し合い活動に自信がもてるように「話型」(話し方の基本型)を、また聞く力や話す力を高め、語彙を増やすために次のような活動例なども報告されました。

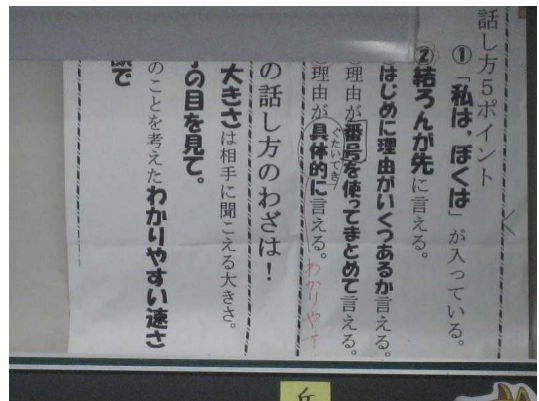
- ・保護者の読み聞かせ
- ・6年生が1年生に読み聞かせ
- ・全校で詩の暗唱に取り組む
- ・朝読書の時間
- ・学級スピーチ

3 終わりに

本校の研究は「書くこと」を窓口にして進めています。課題として残っているのが

- ・「書くこと」を交流することによって、さらに内容をより良いものにしていくための方策
- ・「書く力」をどのように、どのような場面で発揮させていくか

このふたつです。今回の研究会視察で、「交流する」ための土台や方法、手段を再確認できたことは、非常に有意義でした。是非、今後の研修に生かしたいと思っておりますし、なにより学校全体が組織体として機能していることを「研究」という場面からも感じとることができました。また、子どもたちの変容もさることながら職員の変容も大きな成果ではないかという校長先生の話も、とても印象的でした。多くのことを学ぶ機会を与えていただいたことに感謝いたします。



■「話し方5ポイント」の掲示物



■4年1組 国語の授業風景